2023 年度 玉川学園教育課程特例校評価（自己評価結果）

評価：4（十分達成）、3（やや達成）、2（やや不十分）、1（不十分）

評価区分	評価項目	実施内容・状況	2023年度の自己評価	
JPクラス・EPクラスにおける日本語と英語による指導	実施体制	カリキュラムや全体運営、クラス運営を適切に進める体制が取れているか。 ● 特別免許を保有するコーディネーターを配置し、カリキュラムや全体運営を統括・管理出来ている。 ● 教育部長を中心に BLES コーディネーターと教務主任と各教科担当教員が連携・調整を図ることで、英語と日本語の二言語による指導を円滑に実施、効果的に学べる環境を提供できている。	4 4	
	指導計画及び授業の内容	指導計画が適切に策定、実施できているか。 ● 英語で教科指導を行う際は、学習指導要領の内容事項が担保されるよう、日本の教員免許保有者と外国籍教員（特別免許保有者等）で協働して指導計画や評価方法などを策定、実施に努めている。	4	
		授業は円滑に運営できているか。 ● 1・2年生は学級担任制、3～5年生は教科担任制で学習指導を実施している。 ● 日本語指導教科は検定教科書を、英語で指導または英語と日本語で指導する教科は検定教科書とその翻訳版、その他内容に応じた副教材を活用している。 ● 第1言語である日本語を着実に身に付け、その上で英語を同時に身に付けるという考えで学習を進めている。	4 4 4	
	児童・生徒への教育上の配慮等	入学時における対応は適切か。 ● 小学校1年入学時点では英語力を問う試験は課さず、多様な背景を持った児童に対して教育の機会を提供している。 ● 編入希望者に対しては学年相応の英語力も必要となるが、学習環境や見通しなどを説明し、JPクラスのメリットも含め丁寧に説明し、個々に応じた対応を行っている。	4 4	
		入学後の対応は適切か。 ● 全教室に教師コーナーがあり、質問できる体制を取っている。 ● 英語力が不足する児童に対しては、少人数個別指導など弾力的に対応し、学力面は定期的な補習（SH）も実施している。	4 3	
	情報提供の状況	学内外に実践状況を紹介、情報提供に努めているか。 ● ホームページや各種パンフレットを通じて、実践状況を紹介、情報提供に努めている。 ● 保護者に向けての教育説明、実践報告に努めている。 ● 授業公開や研究会などを通して取り組みの成果を発信し、国内外からの見学・視察へ可能な範囲で対応している。	4 3 2	
		実施による効果 特別の教育課程の編成・実施することにより目的に対する効果が表れているか。 ● 英語力の向上がみられる。 ● 国語や算数などの基礎学力も定着している。	4 3	
	その他	その他 ● 6年生からのMYPへの接続に向けて、4年生以上のカリキュラムの策定、実施を進める。 ● 外国籍教員の研修の充実	● 6年生からのMYPへの接続に向けて、4年生以上のカリキュラムの策定、実施を進める。	3
			● 外国籍教員の研修の充実	4

評価区分	評価項目	実施内容・状況	2023年度の自己評価
IBクラス・MYPにおける英語による指導	実施体制	● 教育部長（IB担当）を配置し、IBプログラム全体運営を統括・管理している。 ● 教務、カリキュラム管理では、コーディネーターと教務主任（IB担当）を配置し、一般クラスとの連携を図りながら運営している。 ● 人事、総務関係では専任の事務職員を配置し、教員が教育活動に専念しやすい環境を整えている。	4 4 4
	指導計画及び授業の内容	指導計画が適切に策定、実施できているか。 ● 教務主任（Director for Teaching and Learning）を中心に各教科主任と担当教員が連携を図りながら、指導計画を作成し実施している。	4
		学習指導要領の内容は適切に実施されているか。 ● 教務主任（IB担当）及びIB教務関係担当者間で、確認・全体管理を行っている。	4
	児童・生徒への教育上の配慮等	入学時における対応は適切か。 ● 入学後の学習を見据えた入学試験を実施し、多様な背景を持った生徒に対して教育の機会を提供している。	4
		入学後の対応は適切か。 ● 英語力および日本語力が不足する生徒に対しては、早朝の集中講義の提供や、習熟度別のクラス分けで効果的に言語力が身につくよう配慮している。 ● 模擬国連会議活動等への参加や、大学進学を視野に入れた講座など、教室の学びだけではない実践的な国際教育の場を提供している。	3 4
		国際標準教育が提供できているか。 ● 教務主任（IB担当）により双方のカリキュラムを適切に管理し、生徒がIBプログラムと一条校の学習指導要領の内容を効果的に全うできるよう、入念な措置を講じている。	4
	情報提供の状況	学内外に実践状況を紹介、情報提供に努めているか。 ● 年度毎のテーマに沿った説明会・講演会（IBフォーラム）において生徒による発表を行うなど、入学希望者のみならず一般向けにも授業の実践状況を紹介し、情報の提供に努めている。	3
	実施による効果	特別の教育課程の編成・実施することにより目的に対する効果が表れているか。 ● IBでの学びを通じて「批判的思考」能力が培われている。 ● 将来の進路選択に際して、自立した考えを持つ生徒の増加。	4 4

評価区分	評価項目	実施内容・状況	2023年度の自己評価
IBクラス・DPにおける新科目の設置	実施体制	● 教育部長（IB担当）を配置し、IBプログラム全体運営を統括・管理している。 ● 教務、カリキュラム管理では、コーディネーターと教務主任（IB担当）を配置し、一般クラスとの連携を図りながら運営している。 ● 人事、総務関係では専任の事務職員を配置し、教員が教育活動に専念しやすい環境を整えている。	4 4 4
	指導計画及び授業の内容	指導計画が適切に策定、実施できているか。 ● 教務主任（Director for Teaching and Learning）を中心に各教科主任と担当教員が連携を図りながら、指導計画を作成し実施している。	4
		学習指導要領の科目との対応関係を求める科目は適切に実施されているか。 ● 教務主任（IB担当）及びIB教務関係担当者間で、確認・全体管理を行っている。	4
	児童・生徒への教育上の配慮等	転編入や一般クラスとのクラス変更の際に、配慮出来ているか。 ● IBクラス、一般クラス間で生徒や保護者の希望によるクラス変更を一定の基準の元、弾力的に行うとともに、他校へ転出する場合も指導対応する体制を取っている。	4
	情報提供の状況	学内外に実践状況を紹介、情報提供に努めているか。 ● ホームページや各種パンフレットを通じて、実践状況を紹介、情報提供に努めている。 ● 授業公開や研究会などを通して取り組みの成果を発信し、国内外からの見学・視察へ可能な範囲で対応している。	4 4
		実施による効果 特別の教育課程の編成・実施することにより目的に対する効果が表れているか。 ● 日本の高等学校の学習環境のもと、IBDPの学習内容をリンクさせて学習することが出来る。 ● 将来の進路において、国内外への大学進学などより幅広く選択できる可能性が広がる。	4 4

玉川学園は2006年から幼小中高一貫教育『K-12 一貫教育』を実施しています。「K-12」は「幼稚園 (Kindergarten) から始まり高等学校を卒業するまでの期間」の呼称で、幼稚園、小・中・高等学校という学校種の枠を越えた教育の連結性・一貫性を考えるコンセプトとして使用しています。小学部から高等部までの各学年を1～12年とし、さらに3つのディビジョン『Primary Division』『Secondary Program Division』『IB Programs Division』を設けています。

Primary Division (幼稚部および1～5年) = 幼稚部および小学校1～5年

Secondary Program Division (6～12年) = 一般クラスの小学校6年～高校3年

IB Programs Division (6～12年) = IBクラスの小学校6年～高校3年

玉川学園[幼小中高]

令和5年度学校関係者評価結果

K-12 父母会役員からの意見聴取 (まとめ)

2023年度の学校関係者評価会議では、本学への要望・期待について、保護者の視点からご意見をいただきました。主なものは次のとおりです。

◆K-12 教育活動について

<Primary Division>

- コロナ禍に、より早くオンライン授業を取り入れた経緯もあってか、直近のインフルエンザの流行にもオンライン授業を柔軟に取り入れることで、感染症の状況に応じて対面とオンラインをうまく並行いただけました。また、英検のスコア遷移や英語科目のカリキュラムやテストを通じて、学外で個別学習させずとも学校の英語学習だけで着実に英語力が向上していることを認識できています。
- 子供から直接、または母親と子供のコミュニケーションを通じて、学園活動や授業を聞いているつもりでしたが、授業だけではなく課題授業の充実ぶりには感心させられました。ハーカー校との国際交流・ドローン実験やソーラーカー体験・クラシック鑑賞や日本伝統文化体験など、子供の知的刺激を促進するような仕掛けばかりで、羨ましいと思うくらいでした。入学者数や進路先など定量的な目標値や授業時間確保の難易度も有ろうかと思いますが、是非、K-12プログラムの強化・深耕に際して、子供達の興味を多方面に導いて頂けますと有難いなと思います。
- 本年度よりマスクなしの生活が始まり、他学年との交流も再開し、一貫校ならではの活動が多く嬉しく思いました。上の学年を間近で見ること明確な目標が立てられるので、今後も期待しています。英語の授業に関しまして、1学期の時は前年度よりバグクラブのスタート時期が遅くなることに少し不安を感じていましたが、2学期の頃には英語の力が伸び、積極的にバグクラブに取り組む姿を見ることができました。個人的な意見としてはもう少し早い9月頃よりスタートしてもいいのではと感じました。
- 親として安心しておまかせできる環境だと思いました。
- 特に2年生の田遊びから始まる米作りのカリキュラムは、とても玉川らしく、子供たちの心に残る教育であると感じました。1・2年生は親子で楽しめるカリキュラムが度々ありますが、現3年～5年は、低学年をコロナ禍で過ごしているため、そのような機会が少なかったことが残念です。一方、いじめについては、残念ながら何度か耳にすることもあり、対策を検討し続けなければいけないと感じます。
- 日頃より子供達の為によりよい教育活動を与えて下さり誠に感謝申し上げます。幼稚部につきましては、次年度より合宿を再開予定であり、子供達にとって大変貴重な経験となる活動の再スタートは成長の大きな糧となると期待しております。K-5につきましては、国語力向上のために俳句を強化することは、感性と語彙力・思考力・四季感覚など様々な観点より大変素晴らしいと思います。俳句という大変難しいものを教える指導力も先生方に問われることと存じます。
- 近年増えているであろう共働き家庭の事情を考慮すると、ランチサポートの導入は大きな一歩だと感じています。遠方からの通学児童のことを考慮すると、過去に実施されていたというスナックタイム (簡易版または選択制) の復活は検討してもいいように思います。
- 先日、最寄り駅に電車の中で不審者がおり、子供達が怖い思いをしたことがありました。子供から聞き、次の日には一緒に登校いたしました。子供からの情報なので詳細が分からず、違う車両に乗っていたお子さんの保護者の方は後からそのことを耳にし、「不審者がいたようだ。子供達が怖い思いをしたようだ。」と不安を感じていらっしやいました。物騒な世の中なので、こうしたことがあった後、Google Classroomなどで情報を共有していただけると、保護者の立場と

しましても対策が立てやすいと感じました。

- 先日行われた K-5 父母会にて、教育部長より多くの教員が退職される旨のお話があったことを受けて、各学年の保護者の間で不安視する声上がることは想像に難くないため、そのような声上がる前に相応の説明がないと学校に対する不信感が強まる懸念があると思います。
- 今年度、多くの先生方が退職されますが、来年度以降、学級懇談会を平日に実施するなどにより、先生方の負担軽減につながることを期待しております。また、保護者の過度な要求が先生方に負担をかけているのではと心配しております。学園に足を運ぶ機会が減り、玉川学園の教育理念を理解し、先生方との関係を築く機会が以前よりも少なくなっていることも一因であると考えます。以前行われていた保護者の丘めぐりなどの企画を再開し、保護者の皆様にも玉川学園の一員としての愛着を持っていただけるような取り組みを行うことで、玉川ファンを増やす一助となると考えます。

<Secondary Program Division>

- 多岐にわたる充実した活動を展開していることは理解できましたが、全ての児童生徒がどの程度主体的に参加できているかの指標があれば良いと思います。
- 高等学校新学習指導要領が完成し、どう変化があるのか期待しております。
- コロナ禍で玉川の三位一体に少し距離感を感じていましたが、コロナ後の教育活動、行事の再開により、三者の距離も縮まったと思います。これからのあり方についても柔軟に検討されていると思いました。
- コロナ禍が明け、学園として児童・生徒のことを考えて下さって活動されていると思います。今後も、SSH の発表などで、学外でもたくさん活動できるようにしていただきたいと思いました。
- **Primary Division** 在籍時に比べて、小原國芳先生や全人教育について触れる機会が減ったと感じております。玉川学園の特徴は「全人教育」にあり、生徒たち自身が全人教育や小原國芳先生の素晴らしい思いや教育についてもう少し深く知ってもらえればと感じています。

<IB Programs Division>

- 目標にむけて順調に推移してほしいと思います。
- 自己評価は細部にわたり、多面的に項目があり、なかなか読み応えがありました。あらためて、玉川学園を知る、理解する良い学びになりました。
- 素晴らしく誠実性と熱意を感じた報告でした。どのディビジョンにおいても、現状に甘んじることなく、職員自己研鑽を課題にする姿勢に頼もしさと安心感を覚えます。
- **IB** クラスの学習量から、なかなか部活に入部できないことがあり、そのことから先輩後輩との接点が少ないと感じます。今後も縦割りの活動を増やしてほしいと思います。

<Division 共通>

- 全人教育の理念のもとに各ディビジョンにおいて様々工夫をされていると理解しました。新規事業にも取り組みながらよりよい教育プログラムを日々考えてくださっていることに感謝いたします。
- 各ディビジョンの教育活動のご報告を大変興味深く拝聴いたしました。“連携”が特にキーワードと感じ、一貫教育ならではの教育環境の中にいることを改めて実感いたしました。
- 各ディビジョン共、的確な目標設定と、それに対する対策は充分で、成果も出されていると感じました。また、時代に合った教育へ変化しているところも良いと思います。
- 古き良き教育、今後の AI の時代に向かっていく学びの技、研究からの夢を見つける教育はとても感銘を受けました。
- 各ディビジョンとも、よく考えられたカリキュラムおよび実施状況に満足しています。
- クラブ、部活動の現状や、今後 **ES** との兼ね合いの中での部活の位置付けを伺いたいです。
- 各ディビジョン同士、そして玉川大学とも連携した教育プログラムは非常に魅力的であります。強みを活かした教育を引き続き行って頂くようお願い申し上げます。
- 親学講座の回数を増やして欲しい等、子育てに関する様々な親への講演会を希望する声を多く聞きました。大豆生田先生の講演は大変好評だったので、また検討下されば多くの保護者が足を運ぶ事と存じます。

◆教育課程特例校

【評価ポイント：特例部分の学習活動が適切に行われていると思うか】（回答：19名）

適切である：73.7% 概ね適切である：26.3% やや不適切である：0% 不適切である：0%

<JP・EPクラス>

- EPクラスの Person Primary Benchmark の結果をどのように評価しているか不明でした。
- JPクラスの娘はヒアリングを難なくこなせているようで、ひとえに先生方のご指導のおかげ、また学園内の英語に触れる機会が多い好環境のおかげだと感じております。しかし、スペリングや phonetics が弱く、それらについては授業でもう少し重きを置いていただきたいと感じております。
- EPクラスにおいて、子供が英語と国語を混合せずに理解し学べていることに驚きました。英語の授業内容が工夫されていて、子供が楽しく取り組んでいると感じます。算数に関しましても、日本語と英語で宿題があり、何が理解できていないのか明確に把握できるので助かっております。
- JP・EP共に興味深かったです。とてもいい活動をされていると思いました。
- 第一言語の国語教育に不安がないのか？と聞いていましたが、学力テストの結果、平均的が同レベルとあったので素晴らしいと感じました。
- JPクラスは、英語を楽しく、自然に身に付けるカリキュラムであると感じています。
- 母国語と外国語で同じレベルの能力の習得を目指すだけではなく、あくまでも第一言語、母国語のベースである国語教育の充実を重要視されている点は大変素晴らしいものと考えております。インターナショナルスクールに通っていた日本人が、教習所のテスト内容を理解できないなど耳にします。日本語教育重視、その上での英語力をつける方向性は賛同し、同時に大変感謝しております。
- 算数や理科の学習内容について日本語で補う時間を、特定の学年に限定せずに設けるべきと考えます（日本語で問われて答えられないようでは、第一言語の国語教育が充実しているとは言い難いため）。また、児童への配慮として相談ボックスなるものが設置されていると聞いていますが、児童からの悩みに正面から向き合おうとする回答と言えるものではなく、その存在意義について再考の余地ありだと考えます。
- 保護者としても、他校同学年の学業レベルの標準偏差よりも上にある環境で、子供に切磋琢磨して欲しいと思う反面、様々な事柄に興味を持ち多くのアンテナを張ることの出来る中学生・高校生になるよう、導いて頂けますよう宜しくお願い致します。
- よく考えられたカリキュラムおよび実施状況に満足するとともに、今後にも期待をしています。

<IB-MYP>

- 保護者への教育説明も十分していただけています。
- ほとんどの項目で充分目標を達成しており、次年度以降も頑張っていたいただきたいと思います。
- 自己評価にもありましたが、EPクラス、IBクラスの児童・生徒たちの学習量、課題量、授業時間の負担が個人差はありまじょうが、ストレスや仲間との摩擦になっている懸念があります。その負担軽減に策を講じて下さっていることに感謝です。

<IB-DP>

- 英語力の成果が数字で出ています。教育部長、教務主任、コーディネーター、専任の事務職員の配置など、カリキュラム運営を進める体制がとれていると思います。
- 時代変化に対応しながら教育内容を少しずつアップデートしていく難しさを感じました。
- 順調に推移していると思います。

令和6年7月1日

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

東京都		
学校名	管理機関名	設置者の別
玉川学園小学部	学校法人玉川学園 学園教学部	私立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
玉川学園小学部	https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/quality.html

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
玉川学園小学部	https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/assessment.html	左に同じ

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特になし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

<特記事項>

特別な教育課程の実施状況の把握・検証にあたっては管理機関が認定校の自己評価および学校関係者評価の項目・内容、実施にも関わり、評価結果を確認のうえ公表した。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、小学校段階におけるグローバル人材育成のため、教員配置等の実施体制の工夫や学力の定着状況等、実施による効果について確認できている。また、バイリンガルクラス（EPクラス）に留まらず、一般クラス（JPクラス）も含め、成果をふまえた教育課程や教育活動、評価方法の見直しなど、相互間で連携しながら進めていることが確認できている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、指導計画および授業の内容等、法律に規定する教育目標に照らして適切であり、学習指導要領に定める内容事項についても確認、全体管理を行っていることを確認できている。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・自己評価および学校関係者評価を継続的に行うための内容のチェック、更新。
- ・取り組みの成果の発信をオンラインなども活用し、さらに積極的に行うこと。
- ・対面とオンラインのハイブリッドによる教育活動を意識した取り組みの更なる充実。
- ・日本語と英語で学習する教科の継続したカリキュラム開発、副教材の活用。
- ・戦略的な募集、採用活動による指導教員の確保。
- ・英語力のさらなる向上を目指し、4技能で学習者の進捗を測定する民間のテストを導入。

令和6年7月1日

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

東京都		
学校名	管理機関名	設置者の別
玉川学園中学部	学校法人玉川学園 学園教学部	私立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
玉川学園中学部	https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/quality.html

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
玉川学園中学部	https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/assessment.html	左に同じ

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特になし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

<特記事項>

特別な教育課程の実施状況の把握・検証にあたっては管理機関が認定校の自己評価および学校関係者評価の項目・内容、実施にも関わり、評価結果を確認のうえ公表した。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、日本の教育制度と IB プログラムを融合した国際教育を展開するため、必要となる教職員採用・配置および教職員研修を実施するとともに、教員配置等の実施体制の工夫や学力の定着状況等、実施による効果を継続的に確認できている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、指導計画および授業の内容等、法律に規定する教育目標に照らして適切であり、学習指導要領に定める内容事項についても確認、全体管理を行っていることを確認できている。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・自己評価および学校関係者評価を継続的に行うための内容のチェック、更新。
- ・取り組みの成果の発信をオンラインなども活用し、さらに積極的に行うこと。
- ・小学部のバイリンガルクラス（EP クラス）からの内部進学生と、外部入学者との英語力のレベル差に対する配慮（入試設定や入学後のサポート体制の充実など）。
- ・外国籍教員、外国人留学生や外国籍の生徒などを含む多様性を意識した教育環境の整備、支援スタッフの配置。
- ・正課外での異学年交流や、父母会活動をからめた教育活動の展開。
- ・私学としての建学の精神や教育理念の確認とカリキュラムマネジメント（IBMYP と学習指導要領）

令和6年7月1日

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

東京都		
学校名	管理機関名	設置者の別
玉川学園高等部	学校法人玉川学園 学園教学部	私立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
玉川学園高等部	https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/quality.html

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
玉川学園高等部	https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/assessment.html	左に同じ

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特になし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

<特記事項>

特別な教育課程の実施状況の把握・検証にあたっては管理機関が認定校の自己評価および学校関係者評価の項目・内容、実施にも関わり、評価結果を確認のうえ公表した。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、日本の教育制度と IB プログラムを融合した国際教育を展開するため、国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目の設置を含めた実施体制の工夫や学力の定着状況等、国内外への大学進学など、実施による効果について確認できている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、指導計画および授業の内容等、法律に規定する教育目標に照らして適切であり、学習指導要領に定める内容事項についても確認、全体管理を行っていることを確認できている。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・自己評価および学校関係者評価を継続的に行うための内容のチェック、更新。
- ・取り組みの成果の発信をオンラインなども活用し、さらに積極的に行うこと。
- ・現在特例校として認められている以外の国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目について、高等学校学習指導要領の科目との対応関係を求めていくことを検討。
- ・2022 年度から年次進行で進む新学習指導要領の実施に伴う対応（教育課程改訂、外国籍教員への対応）。
- ・自校教育など、外国籍教員を含めた教員研修を充実させる検討。
- ・専属のカレッジカウンセラーを配置し、より一層充実した進路指導を実現。